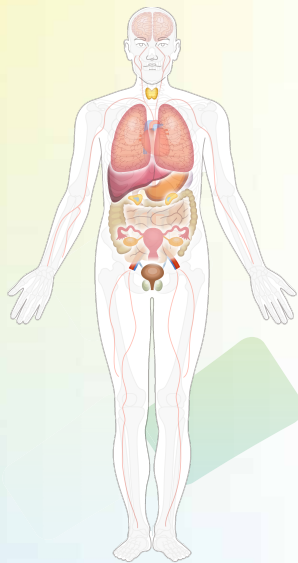




悪性腫瘍



検査項目		目的	悪性腫瘍	
※検査項目をクリックいただくと詳しい情報を閲覧できます。		対象		
生化学 I 総項目数	実施料	主な臨床的意義	10	5
	判断料		109	93
	●合算		144	144
			253	237
1	γ-GT	胆道閉塞・アルコール肝炎・脂肪肝		
2	AMY	膵臓・唾液腺・腎臓		
3	ALP	胆道・骨	●	
4	AST	肝臓・心臓	●	●
5	ALT	肝臓	●	
6	CK	心筋・骨格筋・甲状腺		
7	LD	心臓・肺・骨格筋・溶血	●	●
8	コリンエステラーゼ	肝硬変・脂肪肝・農薬中毒・麻酔・栄養	●	
9	総ビリルビン	肝炎・胆道閉塞・溶血	○	
10	直接ビリルビン	肝炎・胆道閉塞		
11	クレアチニン	腎臓・筋肉量	●	
12	尿素窒素	腎臓・組織蛋白異化	●	●
13	総蛋白	栄養	●	
14	アルブミン	栄養・炎症	●	●
	A/G 比 (計算項目)	一般状態	○	
15	尿酸	痛風・腎臓・肥満		
16	ブドウ糖	糖尿病		
17	中性脂肪	動脈硬化		
18	総コレステロール	動脈硬化	●	●
19	LDL コレステロール	悪玉コレステロール・動脈硬化		
20	HDL コレステロール	善玉コレステロール・動脈硬化		
21	HbA1c	糖尿病		
22	CRP	炎症	●	●

・ HbA1c は血液形態・機能的検査項目で、実施料は 49 点、判断料は 125 点、CRP は、免疫学的検査で、実施料は 16 点、判断料は 144 点。

\* CRP の適応疾患については、診療報酬支払基金の判断に違いがあるので注意が必要

○は、計算項目で保険上算定できない。

●は、10 項目を超えることを容認するなら加える。

●は、生化学以外の検査項目

◆悪性腫瘍

- ・ 進行癌をスクリーニングする検査項目であり、早期診断は不可能である。
- ・ 腫瘍組織は急激な細胞増殖に伴う細胞壊死で組織破壊と同様の検査値変動がみられる。
- ・ 非特異的な酵素である AST、LD、尿素窒素が組織破壊の代表的な項目である。
- ・ 病変の進行に伴って、消費量が増すだけでなく、アミノ酸の摂取量が減少するためにアルブミン、総蛋白、ヘモグロビン、コリンエステラーゼなどの蛋白が減少する。
- ・ A/G 比が低下する。同様に、コレステロール、中性脂肪なども減少する。
- ・ クレアチニンと尿素窒素を測定して、尿素窒素がクレアチニンと解離して増加することを評価する。AST と ALT についても同様である。
- ・ 個々の悪性腫瘍によっては、AMY、ALP、ALT、CK、ビリルビン、尿酸値なども増加することがある。
- ・ CRP も中等度に増加する。